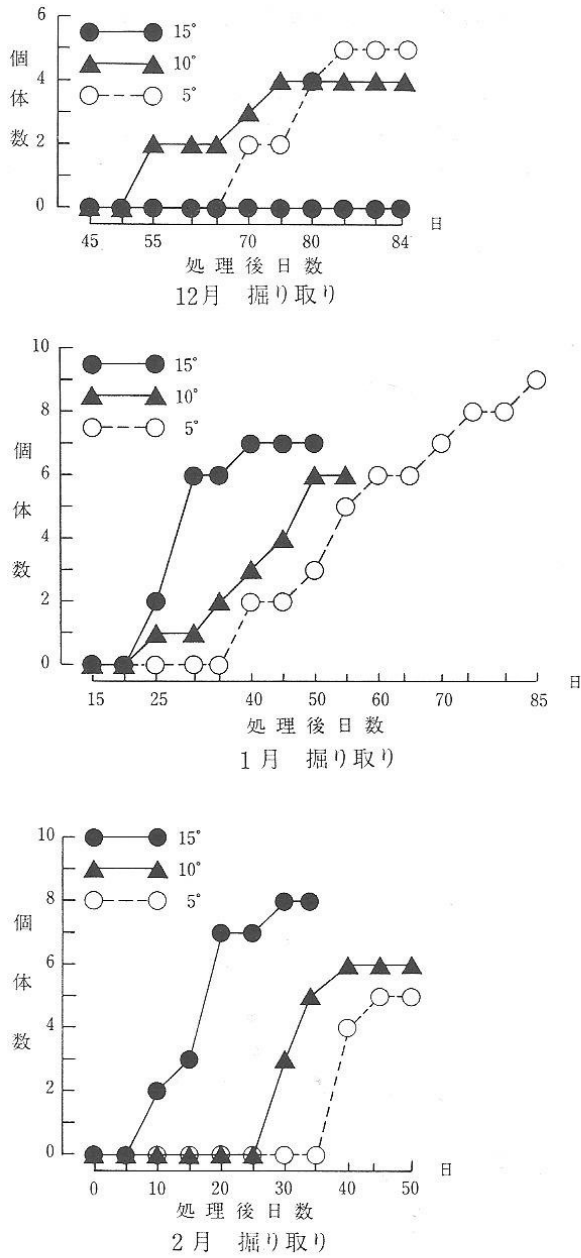


収量差は認められなかった。

12月掘り取りの実験では、出芽は全区とも伏せ込み後10日に始まり、ほう芽揃いはジベレリン処理区で優れた。収穫は第3図に示したように、全区とも伏せ込み後20日（1月8日）から可能となったが、収量は初期より明らかにジベレリン処理区が多く、対照区では少なかった。

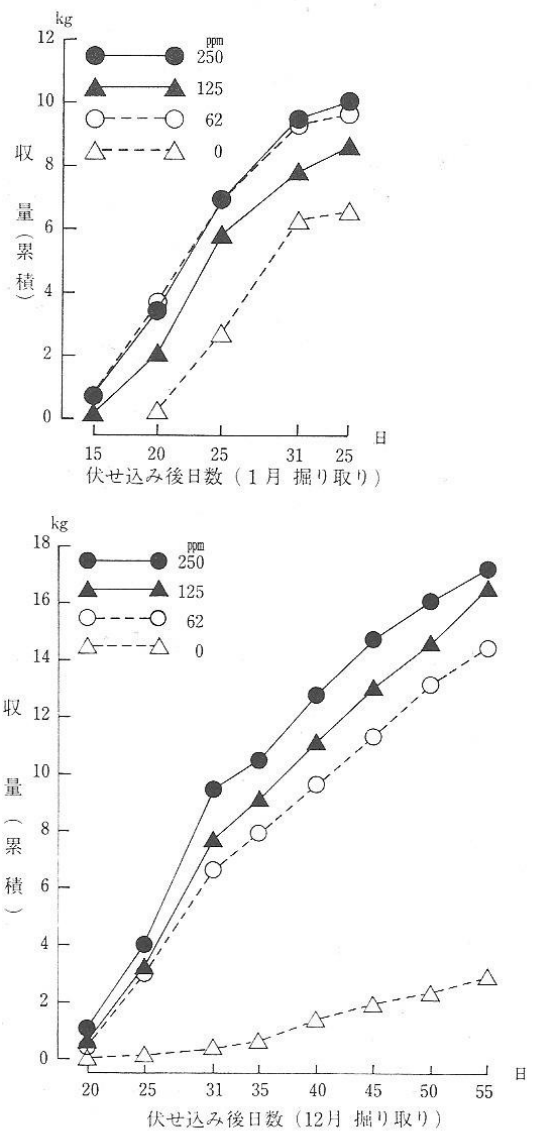


第2図 掘り取り時期と軟化温度が抽だいに及ぼす影響
注) 個体数は供試10株中の株数

また、ジベレリン濃度間では、高濃度ほど収量が多い傾向を示したが、第2表に示したように、ジベレリン濃度間には有意な差は認められなかった。

両実験とも、ジベレリン処理区では供試した根株重と収穫した葉柄数並びに葉柄重との間には、第3表に示したような高い相関関係があった。12月掘り取りの対照区では、ほう芽が不揃いであったことと、伏せ込み後55日で収穫を打ち切ったことのために、相関係数が小さかった。

葉柄の赤色程度は、両実験とも収穫初期ほど濃く、後期には薄くなった。



第3図 ジベレリン濃度が収量に及ぼす影響
注) 収量は20株当たりの累積葉柄重を示す。